

第1章 平成3年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市（吉田・亀山構内）、宇部市（小串・常盤構内）、光市（光構内）の県内各市に分散している。各構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落遺跡として著名な吉田構内をはじめとして、旧石器時代のまとまった遺物が出土する小串構内など周知の遺跡が埋存している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各構内において現状変更を伴う諸工事に対し、埋蔵文化財保護の立場から調査・研究を行っている。埋蔵文化財の調査を必要とする場合は、工事地域周辺における既往の調査結果や工事の内容、埋蔵文化財に対する影響の度合などを勘案し、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、事前・試掘・立会の三種の調査方法によって調査を実施している。

平成3年度は下記のように、試掘調査2件、立会調査11件の計13件の調査を実施した。

Tab. 1 平成3年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	調査面積 (㎡)	調査期間	挿図番号
試掘	農学部連合獣医学科棟新営	吉田構内	O・P-17	76	7月22日～ 8月10日	Fig. 86-121
	教育学部附属光中学校 武道館新営	光構内		38	12月2日～ 12月13日	Fig. 91-10
立会	農学部仮設プレハブ倉庫設置	吉田構内	P・Q-17	6	5月31日	Fig. 86-122
	農学部微生物実験室その他 模様替機械設備改修	吉田構内	P-16	8	11月13日	Fig. 86-123
	大学会館前庭部記念植樹	吉田構内	L・M-16	2	1月17日	Fig. 86-124
	サークル棟新営	吉田構内	E・F-14	1	2月7日	Fig. 86-125
	医学臨床実験施設新営 電気工事	小串構内		0.5	11月15日	Fig. 87-21
	大学祭展示物設置	常盤構内		7	11月12日	Fig. 88-10
	教育学部附属光小学校 屋外施設設置	光構内		18	11月22日	Fig. 91-11
	教育学部附属光中学校 バックネット新設	光構内		0.5	2月21日	Fig. 91-12
	湯田宿舎A棟給配水 その他改修			27	8月26日	
	経済学部柱6号職員宿 舎設置			0.5	11月5日	
	人文・理学部職員宿 舎公共下水切替			1	3月30日	

吉田構内の調査 (本部、人文・教育・経済・理・農の各学部、教養部：山口市大字吉田1677-1、教育学部附属養護学校：同吉田3003所在)

試掘調査1件、立会調査4件を実施した。

構内の中央部からやや東で実施した、農学部連合獣医学科棟新営予定地での試掘調査では縄文時代晩期の河川跡を検出した。幅約17m以上の規模をもち、ほぼ北から南へ走行する。河川の埋積土から新旧二時期の流路が認められるが、出土遺物からは大きな時期差は考えられない。吉田構内ではこれまで縄文時代の遺物は散発的に出土していたが、遺構は

構内の南西端部に位置する教育学部附属養護学校敷地で土壌、ほぼ中央部に位置する教養部複合棟敷地や南西部の南門周辺で河川跡など、ごくわずかにその存在が知られているにすぎなかった。縄文時代の集落の調査事例は弥生時代以降の集落の調査事例と比較して極めて少なく、不明瞭な点が多いが、検出した河川跡は縄文時代の集落の立地や規模の解明に基礎資料を提供した。

立会調査では、構内の中央部付近で実施した農学部仮設プレハブ倉庫設置に伴う調査で、構内造成土中からではあったが須恵器若干が出土した。また、調査と併行して調査地域のすぐ西に位置する農学部害虫学実験畑で須恵器の坏、碗、壺などを採集した。実験畑からは過去にも8世紀代を主体とする須恵器が採集されており、付近に遺構もしくは遺物包含層が存在する可能性が高い。吉田構内の中央部や西端部付近で行った他の立会調査では、顕著な遺構、遺物は認められなかった。



Fig. 1 山口大学吉田・亀山両キャンパス位置図

なお、大学会館前庭部での記念植樹にあたっては、掘削によって遺物包含層もしくは遺構に影響をおよぼす恐れが十分に考えられたが、関係部局の配慮を得て昭和60年度に実施した前庭部の試掘調査の所見をもとに、植樹地点を埋蔵文化財に影響のないと考えられる地点に変更することとなった。

小串構内の調査（医学部、同附属病院、医期大学部：宇部市大字小串1144所在）

構内の南西端部で電気ケーブルの埋設に伴い立会調査を行った。調査区内に小串構内で旧石器時代に属すると考えられる石器を含む堆積層を検出したが、調査面積が狭いことから今回の調査では遺物は認められなかった。

常盤構内の調査（工学部：宇部市常盤台2557、尾山宿舍：同上野中所在）

構内のほぼ中央部で、大学祭展示物設置に伴い立会調査を行った。表土直下が地山となっており、また、表土中に地山の削平土が客土されていることから、調査地域周辺の削平が激しいことが窺われた。常盤構内ではその他の構内と比較して過去の調査事例が少なく、また、点的調査が主体で調査地域も構内西半部が多い。したがって、必然的に埋蔵文化財の有無や分布状況を判断するための具体的な資料が欠如しているのが現状で、今後とも立会調査や試掘調査などの継続的な調査が必要である。

光構内の調査（教育学部附属光小学校、同光中学校：光市大字室積浦1-1所在）

「御手洗遺跡」として周知されており、試掘調査1件、立会調査2件を実施した。

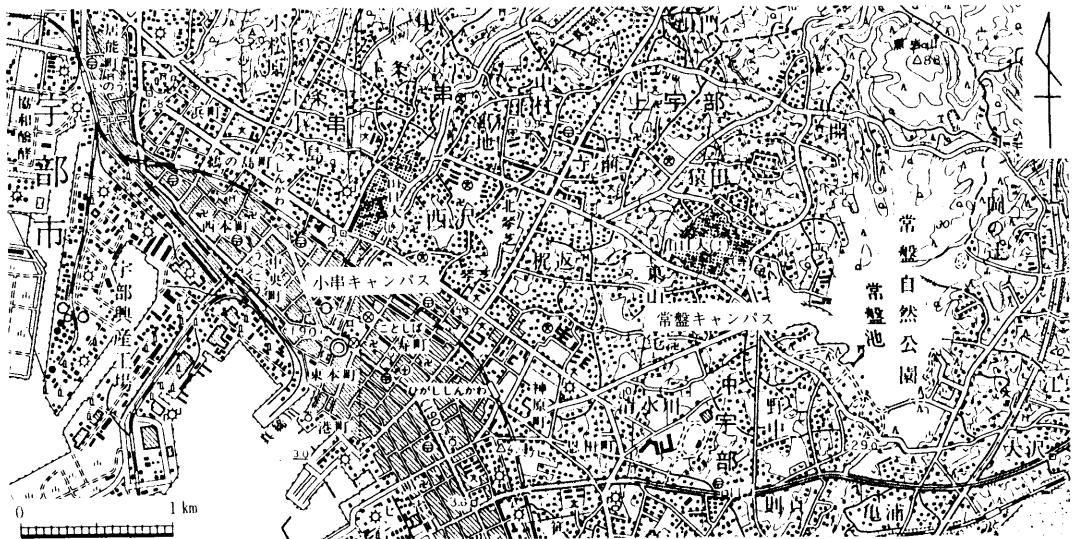


Fig. 2 山口大学小串・常盤両キャンパス位置図

中学校武道館新営に伴う試掘調査では、遺物包含層の下位に土壌2基、溝状遺構1条、柱穴状遺構1基を検出した。各遺構からの出土遺物はなく、また、その上位に堆積する遺物包含層からは大きく時期の隔たる遺物が出土している。遺構の時期はにわかに決定できないが、各遺構の埋積土の色調が平成2年度の調査で光構内の北西部に位置する小学校運動場敷地で検出した、6～7世紀の土壌群の埋積土の色調が異なること、および調査地域の北東に位置する光中学校体育館敷地で検出した遺物包含層からの出土遺物が奈良時代～平安時代を主体とすることなどから、古代に属する可能性が高い。

構内の西半部を占める小学校運動場の西縁部で行った屋外施設整備に伴う立会調査では、平成2年度に運動場敷地の東縁部および北縁部で検出した遺物包含層が認められた。出土遺物は少なく、土師器若干と石錘がある。構内の東端部付近で行った中学校バックネット新設に伴う立会調査では、遺物包含層と考えられる砂層から平安時代後期の土師器（台付皿）が出土した。台付皿は光構内の南東に位置する月待山遺跡から多量に出土しており、流れ込みの可能性がある。

その他構内の調査

山口市湯田温泉六丁目に所在する湯田職員宿舎敷地、同旭通二丁目に所在する経済学部職員宿舎、同天花に所在する人文・理学部職員宿舎敷地で立会調査を実施した。

湯田職員宿舎敷地では現地表面から最大約50cm下位まで掘削したが、顕著な遺構、遺物

は認められなかった。経済学部職員宿舎敷地では電柱埋設に伴い調査を行い、現地表面から約2.4m掘削した。表土の下位に砂および礫の堆積がみられたが、堆積層から遺物は出土しなかった。堆積層の組成、調査地域が蛇行しながら樫野川へ注ぐ一の坂川のすぐ右岸に位置することなどから一の坂川の氾濫原にあると考えられる。一の坂川の形成する扇状地の扇頂部に立地する人文・理学部職員宿舎敷地の調査では、一部で埋め土、旧水田耕作土の下位に地山が認められたが、遺構は検出できなかった。

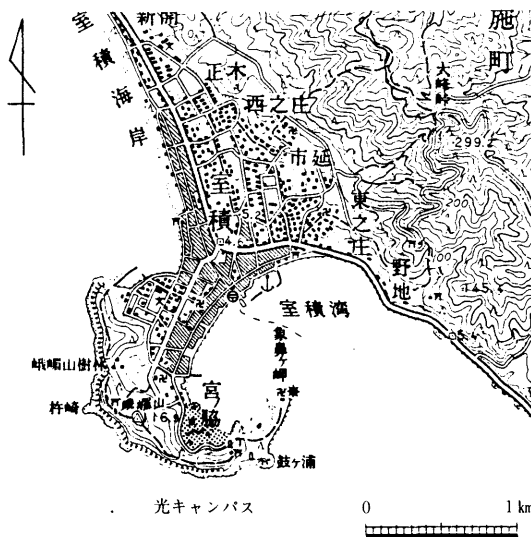


Fig. 3 山口大学光キャンパス位置図

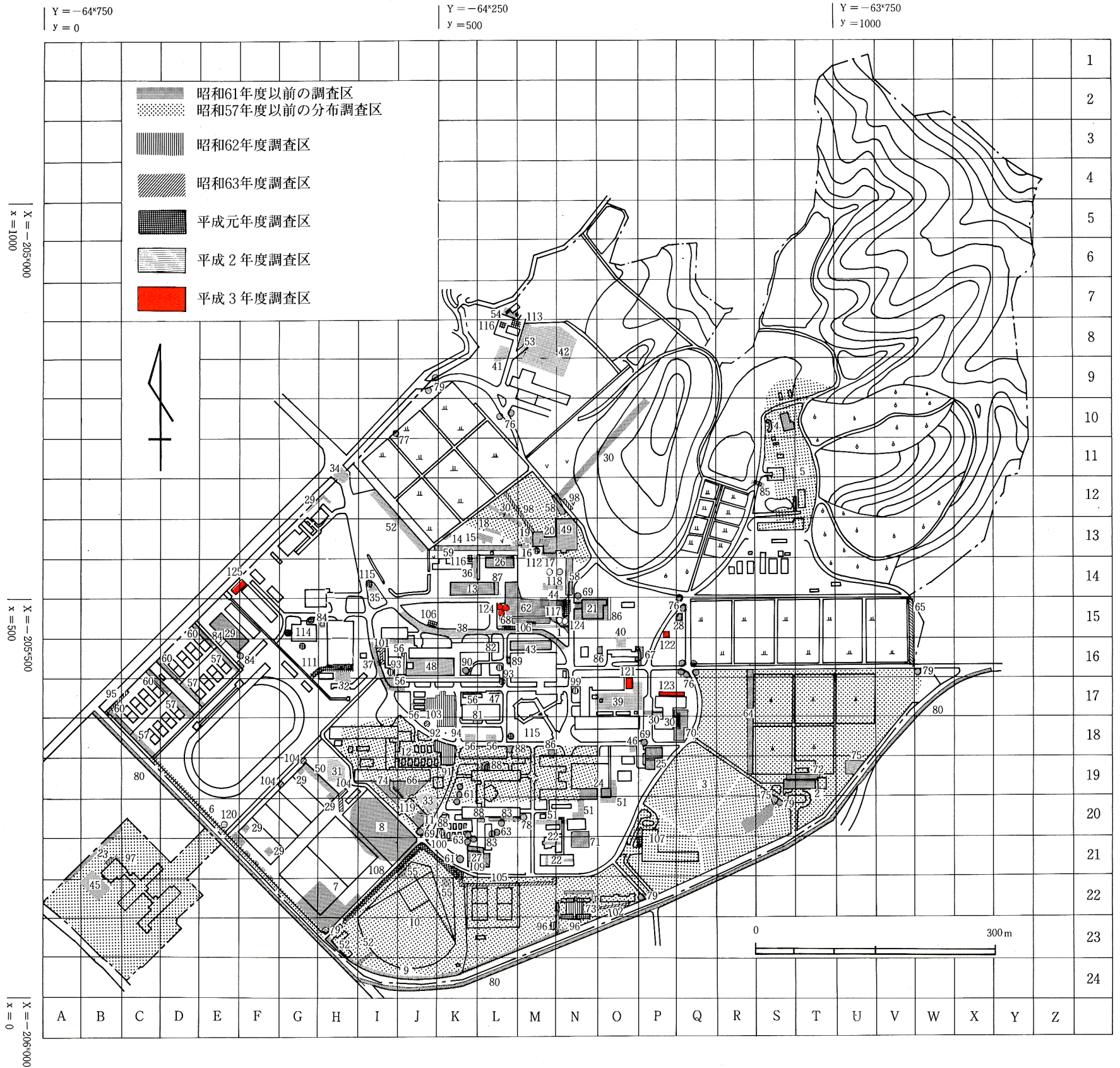


Fig. 86 山口大学吉田構内地区割および調査区位置図

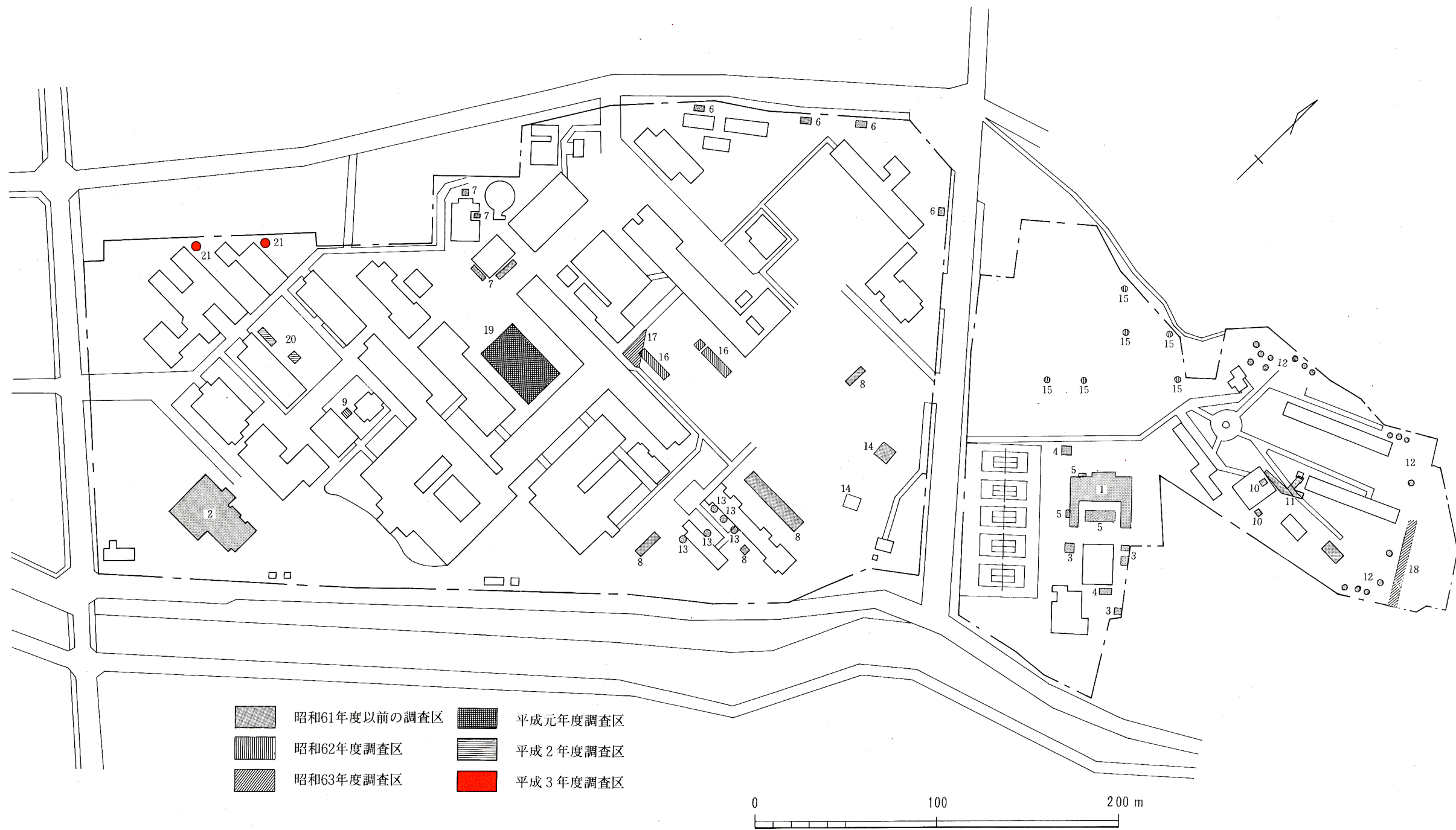


Fig. 87 山口大学小串構内調査区位置図

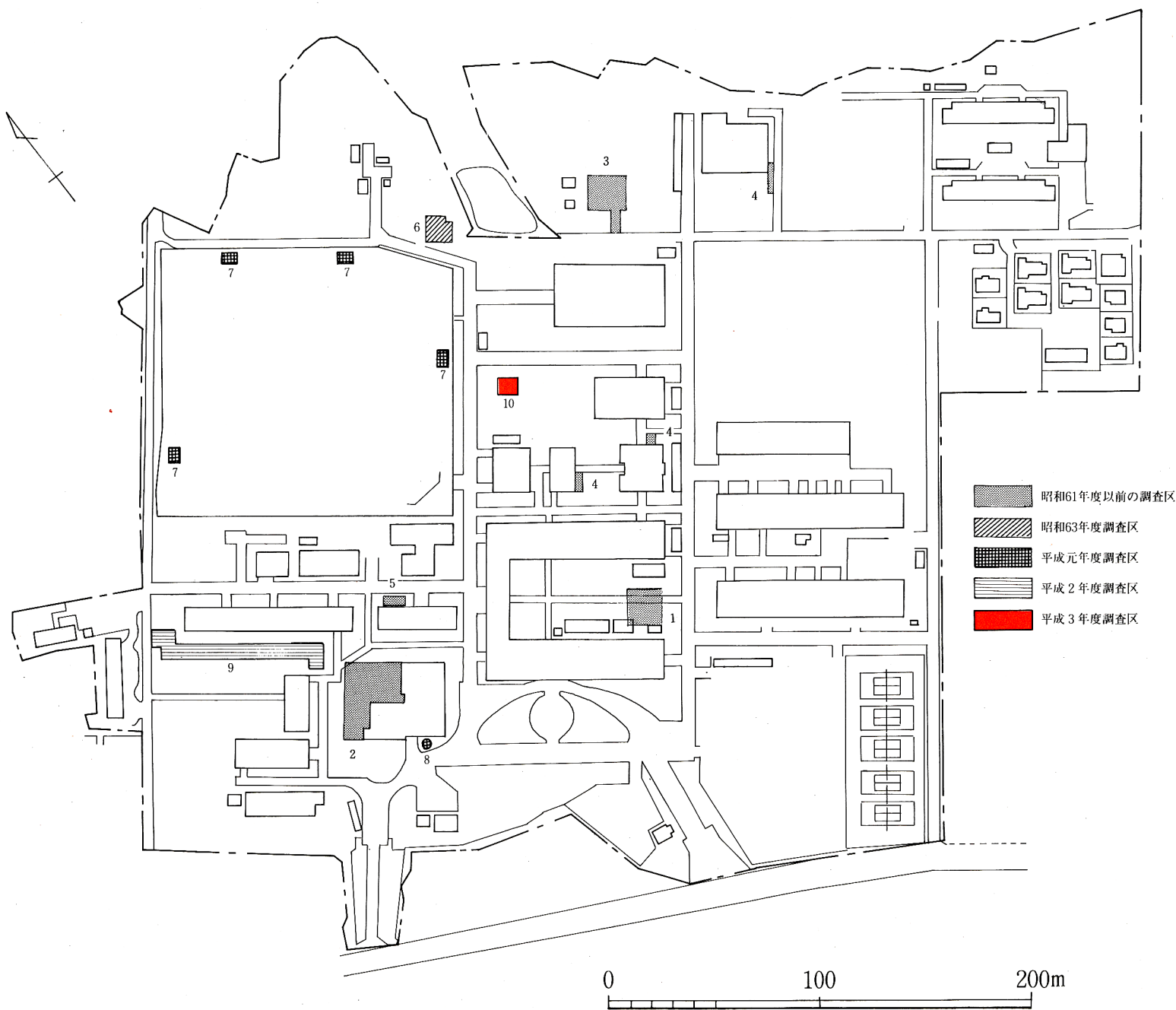


Fig. 88 山口大学常盤構内調査区位置図

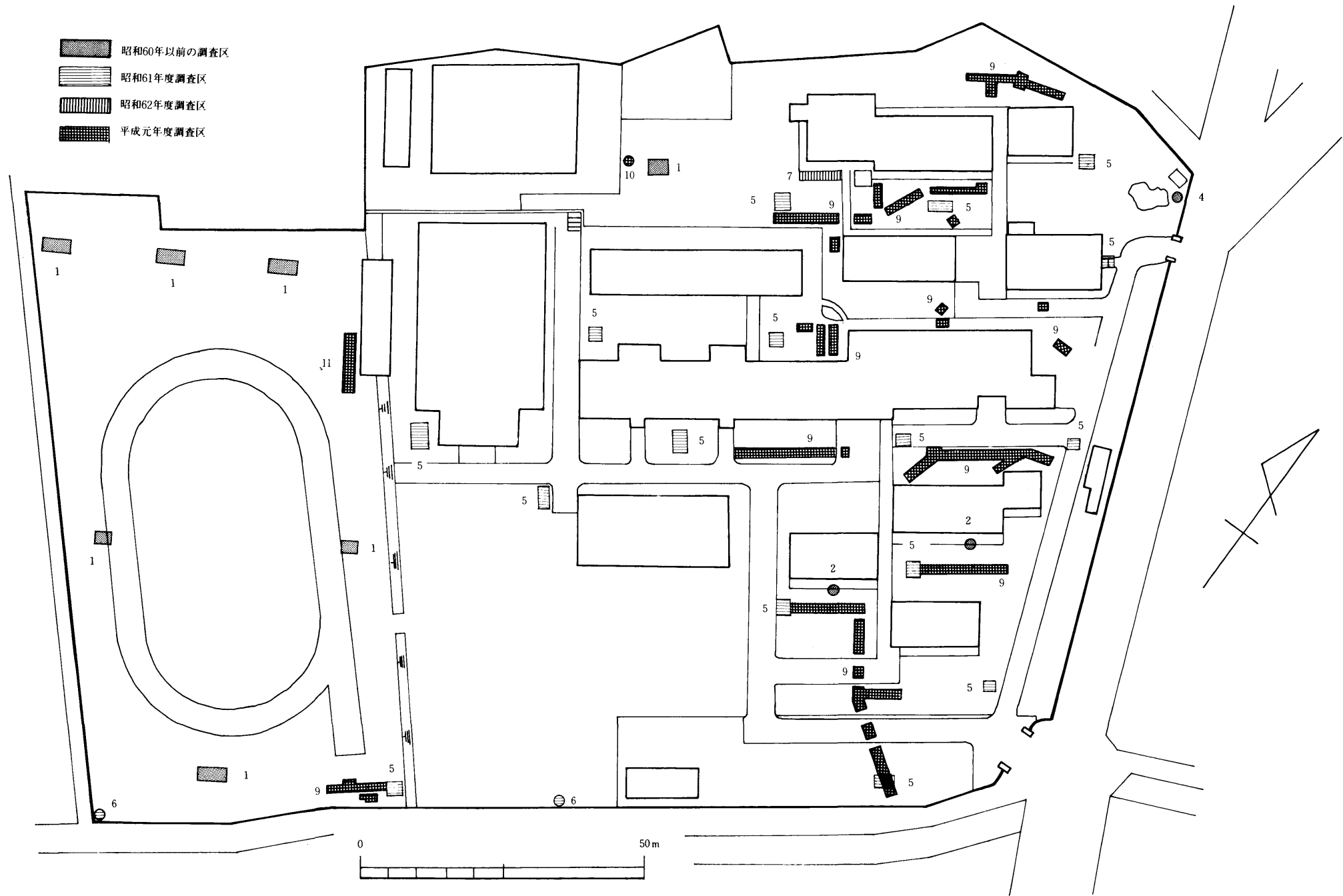


Fig. 89 山口大学亀山構内（幼稚園・小学校）調査区位置図

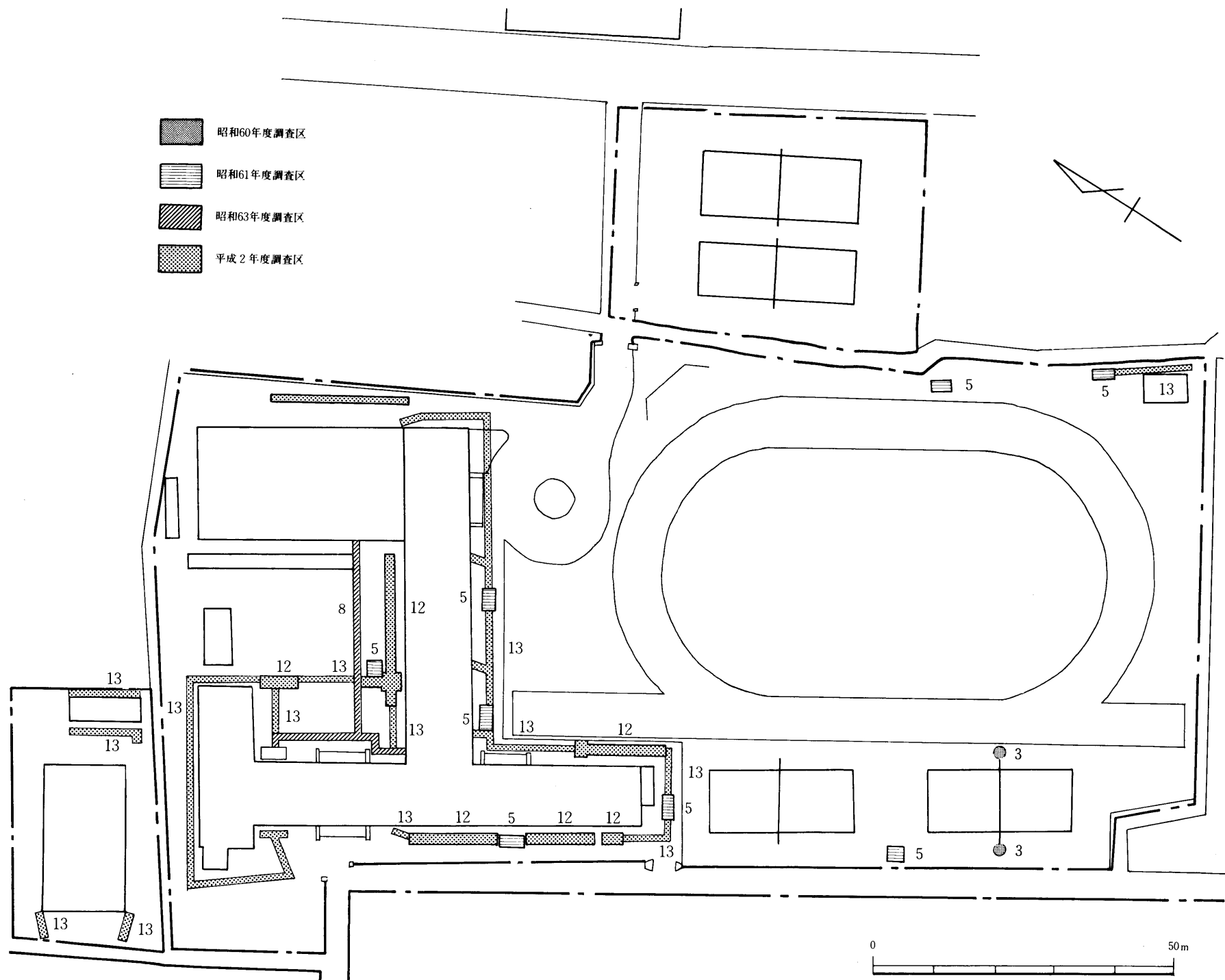


Fig. 90 山口大学亀山構内(中学校)調査区位置図

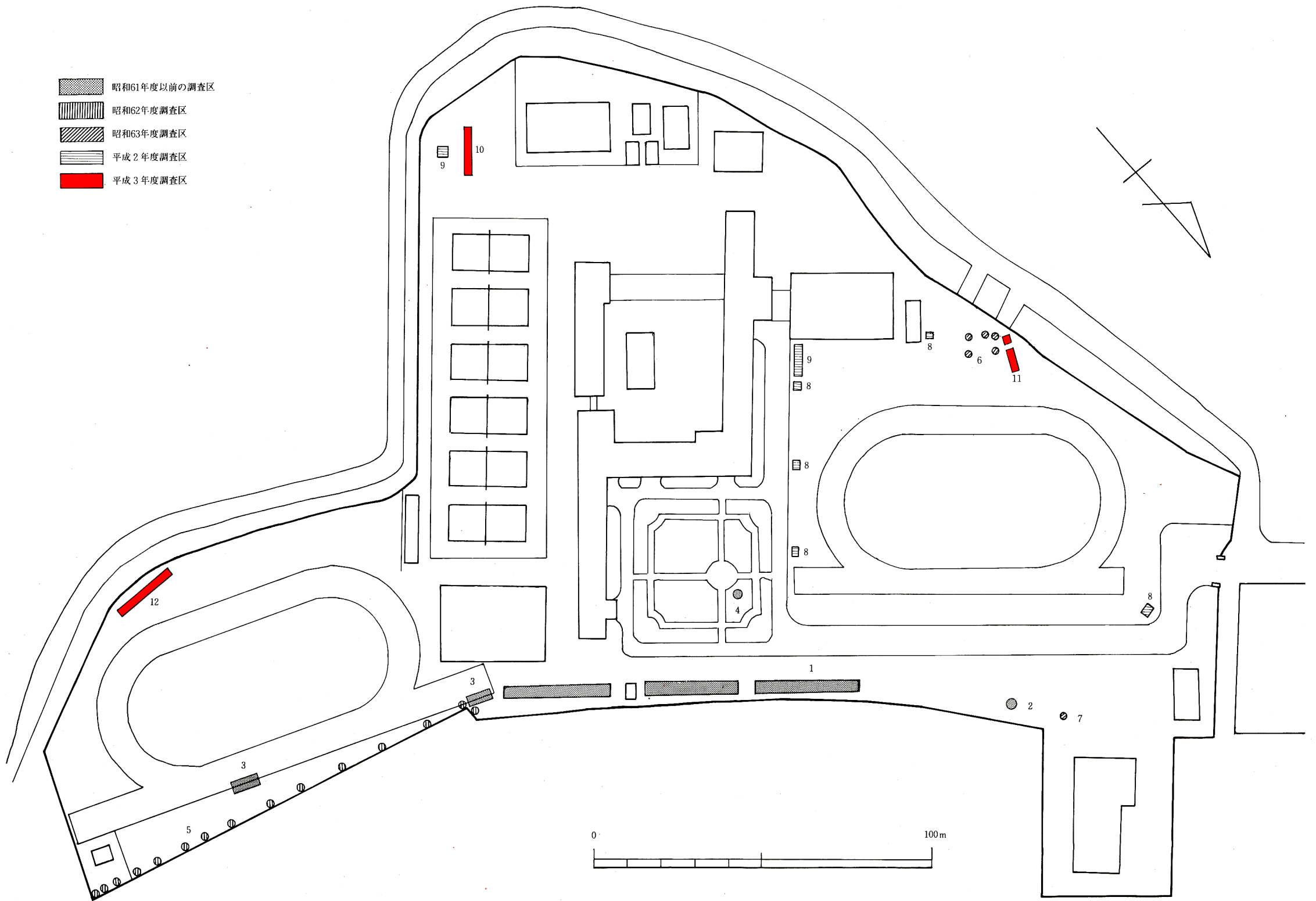
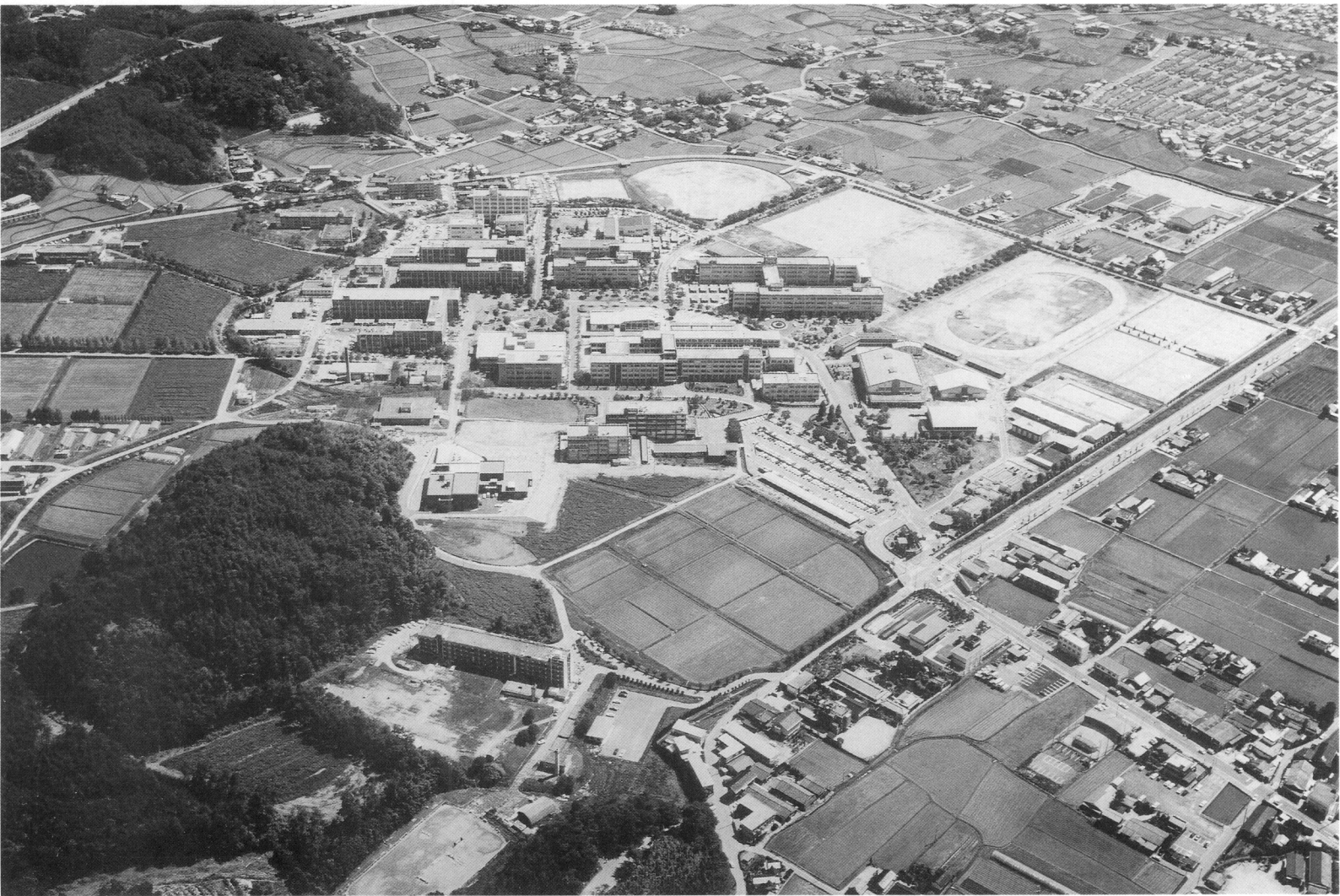


Fig. 91 山口大学光構内調査区位置図



吉田構内全景(北西から)